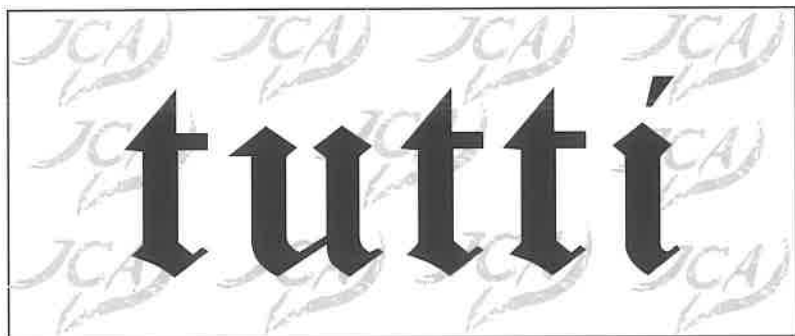




第81号 令和7(2025)年12月25日

富山県合唱連盟

事務局 北日本新聞社事業局内

〒930-8680

富山市安住町2番14号

TEL (076) 445-3355

FAX (076) 431-1924

発行人 中井隆司

第78回全日本合唱コンクール全国大会

(中学生・高等学校部門) 大成功!

出演者・審査員・大会役員・スタッフの皆様、

ありがとうございました！

富山県合唱連盟理事長 中井隆司

10月25日(土)・26日(日)、北海道から九州・沖縄までの全64団体が富山に集まり、中高生約2500名が洗練された美しい歌声をオーバード・ホールいっぱい響かせました。表彰式前の「歌い回し」の時間には、今を力強く生きる生徒たちが爽やかに和やかに交流し合う姿もあり、本当に感動しました。

人口減少により全国各地で小中学校や高等学校の合併や統廃合が実施され、文化活動の地域移行・地域展開も急速に進んでいます。そんな社会情勢の中でも熱心に合唱・音楽活動を継続してくださっている先生方に心より感謝いたします。

また、生徒たちが入場・演奏・そして最後の一人が退場するまで、観客の皆様温かい拍手も嬉しかったです。思い出に残る素晴らしいコンクールになりました。本当にありがとうございました。

1996(平成8)年のオーバード・ホール開館以来、富山県での全国大会は3回目です。

1回目は2001(平成13)年の第24回全日本おおかさんコーラス大会全国大会
2回目は2012(平成24)年の第65回全日本合唱コンクール全国大会(大・職・一般部門)

大会開催の決定から3年。富山県や富山市、富山市民文化事業団をはじめ多くの皆様のご支援・ご協力をいただき準備を進めてきました。今回は、新築なったオーバード・中ホールと連携しスムーズで余裕のある運営を心がけました。

開催に当たり、「舞台進行」「会場」「受付」「誘導」「接待」「審査」「総務」の各部門のチーフを中心に作業を進めていただきました。9月上旬に「全国大会実行委員会のグループライン」を作成して以降、急ピッチで部門内外問わずに連絡調整し重要事項を共有していきました。長期にわたり本当に大変なご苦労をおかけしたことを思います。ありがとうございました。

そして大会当日は「お客様を笑顔で温かくお迎えしよう!」を合言葉に、実行委員含め約200名の県連スタッフが丸となって取り組みました。雨天対応などイレギュラーなこともたくさんありましたが、皆様が一つ一つ臨機応変に誠実に対応してくださったお陰ですばらしい大会になりました。

大会実行委員会の皆様、中高大学生の皆様、一般の皆様、オーバード・ホールスタッフの皆様ほか、ご支援・ご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



▼第78回全日本合唱コンクール富山県大会 ▼第78回全日本合唱コンクール中部支部大会

2025年7月27日(日) アイザック小杉文化ホール(ひびきホール)にて、「第78回全日本合唱コンクール富山県大会」が開催され、小学生、中学生、高等学校、大学職場一般部門から13団体が出演しました。全日本合唱連盟理事長賞を受賞したアンサンブル舞歌をはじめ、各出場団体は日頃の練習成果を発揮し、素敵なハーモニーを響かせました。

また、県代表に選出された5団体は、9月27日(土)・28日(日)に愛知県豊田市民文化会館で開催された「第78回全日本合唱コンクール中部支部大会」に出場し、アンサンブルサンベリナとなりが金賞を受賞するなど活躍しました。

★第78回全日本合唱コンクール富山県大会

《小学生部門》

砺波市立出町小学校合唱クラブ 金賞 県代表

《中学生部門》

富山大学教育学部附属中学校コーラス部 金賞

A Small Cedar Choir 銀賞

砺波市立出町中学校合唱部 金賞 県代表

富山市立堀川中学校合唱部 銀賞

《高等学校部門》

富山県立砺波高等学校合唱部 銀賞

富山県立魚津高等学校音楽部 銀賞

富山県立富山高等学校コーラス部 金賞 県代表

富山県立富山いずみ高等学校合唱部 金賞

富山県立富山東高等学校合唱部 銀賞

《大学職場一般部門》

富山大学合唱団 金賞 県代表

アンサンブルサンベリナとなみ 金賞 県代表

★第78回全日本合唱コンクール中部支部大会

《高等学校部門 Aグループ》

富山県立富山高等学校コーラス部 銅賞

《大学職場一般部門 大学ユース部》

富山大学合唱団 銅賞

《中学校部門 同声合唱の部》

砺波市立出町中学校合唱部 銅賞

《大学職場一般部門 室内合唱の部》

アンサンブルサンベリナとなみ 金賞

《大学職場一般部門 混声合唱の部》

アンサンブル舞歌 銅賞

中部支部大会に出場して

アンサンブル舞歌 廣井健一

私たちアンサンブル舞歌は、2025年9月に豊田市民文化会館大ホールで開催された第78回全日本合唱コンクール中部支部大会に出場し、結果は惜しくも銅賞となりました。悔しさは残りましたが、チャレンジングな選曲に向き合う中で得られた結果であり、その過程で団として得たものは大きかったと感じています。課題曲として取り組んだ Das edle Herz (ブルックナー) では、慣れないドイツ語の発音と発声の両立に苦勞し、曲想に踏み込むまでもに時間を要しました。また、自由曲である「グレゴリオ聖歌の主題」による4つのモテット(テュリユフレ)では、繊細なハーモニーに最後まで試行錯誤が続きました。これらの取り組みを通して、技術面だけでなく、音楽への向き合い方そのものを改めて考える機会にもなりました。

舞歌は結成からもうすぐ7年を迎え、団員数の増加に伴いメンバーの年代や合唱歴も幅広くなり、合唱団としての面白さがますます広がっています。これまでがむしろに走ってききましたが、今後の活動や体制を見直し、少しずつ新しい形へ進み始めています。今回得た学びを糧に、舞歌はこれからもより良い合唱音楽の追求に向けて歩んでいきたいと思っています。



第48回全日本おかあさんコーラス

全国大会 く女声合唱の祭典

2025年8月23日(土)・24日(日) やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)にて「第48回全日本おかあさんコーラス全国大会」女声合唱の祭典が開催され、中部支部代表に選出されたALLA CARTAはひまわり賞を受賞しました。

ALLA CARTA (サンベリナとなみ)

①「『ぶんぶんぶん、ぶりぶり』って曲、ご存じですか？」と作曲家・指揮者の相澤直人先生が発した一言。

②サンベリナとなみ(部活動地域移行で誕生した団体)の大人メンバーを中心に、「合唱を指導するならしっかり合唱を学びたい」という思いがあったこと。

このような理由から、2024年にALLA CARTAが誕生しました。同年、富山県で開催されたおかあさんコーラス中部支部大会に初参加させていただき、「おかあさんコーラス大会」の魅力にドはまり。合唱が人と地域を結ぶ素晴らしいイベントにメンバー一同感動。「次回、全国目指しちゃう?」相澤先生に指揮をお願いしちゃう?と談笑しながら夢を語ったことを思い出します。

2025年の夏。山形

県での全国大会では、「富山」をアピールできたかとプリ愛を全面に出し参戦。相澤直人氏の作品「知るや君」、そして「寒ブリのうた」を賛沢にも相澤直人先生の指揮で歌う念願の全国ステージに大興奮です。また、全国から集まるみなさんの演奏を堪能し、山形の名産名酒を楽しむ、おかあさんコーラスの魅力にどっぷり浸りました。たくさんの方の皆様からの応援に感謝いたします。



第78回全日本合唱コンクール全国大会 (中学生・高等学校部門)

2025年10月25日(土)、26日(日)オーバード・ホールにて「第78回全日本合唱コンクール全国大会(中学生・高等学校部門)」が開催されました。中学生・高等学校部門が富山県で開催されるのは初めてです。全国から支部大会を勝ち上がった64団体 約2,500名が集い、ホールは素晴らしい響きで満たされました。富山県合唱連盟は、全日本合唱連盟と共に運営を担い、約200名のスタッフが部門ごとに力を合わせて大会を支えました。

《舞台進行部》

各団体の演奏進行や舞台サポートを担当したほか、開会式や表彰式の進行を支えました。慣れないながらも舞台袖の業務を効率よく分担することで、スムーズな進行ができました。

《会場部》

ホール客席でのお客さま案内のほか、リハーサルや荷物預かり、昼食会場など、出演者から来場客まで幅広いおもてなしを担当。インカムでの適時の情報共有やステージからのアナウンスなど、機転を利かせた対応が印象的でした。

《受付部》

出演者や一般客、招待客の受付のほか、記念どら焼きなどの物販も担当。お客さまとの最初の接点になるため、様々な要望を受ける業務でしたが、笑顔や挨拶とい

った丁寧な対応を心がけました。

《誘導部》

出演者の誘導案内や動線での扉係など、出演者のサポートの一切を担当。高校生や大学生が多く活躍した部門であり、体調不良者への対応など様々なトラブルにも適切に対応しました。

《接待部》

全日本合唱連盟や朝日新聞社他の役員や審査員、来賓の接待のほか、スタッフへの食事準備や出演者給水などを担当。スタッフへの飲み物やお菓子も準備し、陰ながら大会全体を温かくサポートしました。

《審査部》

審査員の誘導や審査員楽譜の管理、計時など、演奏審査における重要なパートを担当。他大会での教訓を生かし、細かなマニュアルを作成することで、滞りなく審査を完了することができました。

《総務部》

大会全体の計画から当日の進行まで、すべての段取りを取り仕切りました。限られた人数の中でしたが、当日のトラブルも迅速に対応できました。

また、広報部では、大会期間中の様子をタイムリーにSNSへ投稿し、大会のアピールや富山県のPRを行いました。ハッシュタグ「#78富山全国」を通じて、大会や富山県連へ感謝や評価の声が寄せられ、全国の皆さんとのつながりを感じる大会となりました。



コラム

私たちのイチオシ合唱曲

～歌う楽しみ、聴く楽しみ、
合唱曲への思いを語りませんか～

一推しの曲との題名をいただきました。私としては、合唱曲「犀川」を推薦いたします。この曲は、今年のガルガンチュア音楽祭2025で歌いました。リハーサルの時に、「今日歌う曲で一番難しい曲は犀川、自分のパートを奏でる楽器に乗るしかない」とぼやいた時、突然、隣にいたガルガンチュア音楽祭2025の実行委員の方が、突然握手してきて、「それは正解です。よくお判りですね。この曲は、石川県立金沢二水高校合唱部が歌い継いできた曲で、昔、NHK音楽コンクールの自由曲でも歌われた事がある」との説明を受けました。作詞は、金沢三大文豪の一人、室生犀星。この詩には、いろんな方が作曲されています。僕がお薦めするのは、作曲：磯部俣編曲：須賀敬一、合唱団の力量が問われる曲です。是非チャレンジいただければと思います。僕も、リベンジいたします。

新湊合唱クラブ 松本繁久

「この想い この絆」
富山大学附属中学校2年 吉田 心優
私たちコーラス部は、2年生6人、1年生4人の計10人で活動しています。附属と言えはコーラス部、と言われるほど伝統のある部活動で、少人数ながら一人一人が歌を心から愛し、「人の心に響く合唱」をすることをスローガンに日々練習を重ねています。そんな私たちが紹介する曲は「この想い この絆」です。これは、3年生が引退して初めての大会舞台であった富山市中学校文化祭のステージでも歌わせたいただきました。この曲には、仲間と過ごした時間やその中で生まれた想い、そして絆が未来を創っていくという、温かく前向きなメッセージが込められています。歌詞の意味を深く考え、登場人物の心情を想像しながら声を合わせる時間は、私たちの絆をより強くしてくれました。部員は10人と少ないですが、歌う喜びはその人数以上です。合唱の魅力やこの曲に込められた想いが、多くの方の心に届くことを願っています。



富山ジュニアオーケストラ＆コーラス 第2回定期演奏会

2025年9月15日（月）

新川文化ホール大ホール

第1回定演を2月に無事に？終演した記憶も新しいですが、9/15には第2回定期演奏会を実施いたしました。第2回定演に向けてさらにステップアップするため、学びの森での練習合宿やコンサートマスターオーディション等、様々なイベントを企画しましたが、蓋を開けてみると、私が想定していた以上に、団員に大きな変化のあった半年でした。上級生の子たちが下級生の子たちの面倒を自発的に見るようになったり、演奏面だけでなく運営面も自分たちに来ることをしたいという声があがったりと、団員が主体的に活動する場面が多く見られるようになりました。活動初期は真っ白だった「箱」が、団員みんなの想いで少しずつ色づいていく様子を末永く見守っていききたいと思います。

合唱団「あるも」第26回演奏会

11月2日（日）

富山市民プラザ アンサンブルホール

今年は、客演指揮者に声楽家の安田裕美さんをお迎えしての演奏会となりました。第1ステージでは、高野民雄作詩、森山至貴作曲の「太陽と海と季節」を演奏し、第2ステージではミュージカル・映画音楽ステージを昨年度に続いて披露しました。第2ステージは、指揮者なしでピアニストの清水香里さんに合わせながらソロも交えながらのステージで、「オペラ座の怪人」では安田裕美さんにも歌っていただくという贅沢なステージとなりました。第3ステージでは安田裕美さん指揮で源田俊一郎編曲の「ふるさとの四季」を

演奏し、初めての共演を楽しんで終わることができました。来年も引き続き清水香里さん、安田裕美さんと真摯に音楽に取り組んで、演奏会に向かいたいと思います。

福野あすなろ合唱団

「ヘリオス音楽祭」

11月3日（月）

福野文化創造センター ヘリオス

ヘリオス音楽祭は、毎年11月3日に福野文化センター（ヘリオス）で開催され、今回で34回目です。地元で活動するスチールドラム、ハンドベル、コーラス小中高校の合唱部、吹奏楽部などが出演します。私達あすなろ合唱団は1回目から出演しています。この音楽祭の特徴は福野の夜高祭りの様子を合唱曲にした「夜高幻想」を出演者全員で演奏する事と毎年必ず様々なジャンルのプロの演奏家のゲスト出演で、時には共演もします。今年のゲストは 福野出身のテノール歌手古瀬ゆうきさんと、童謡や日本の曲などを情感豊かに歌われて、皆さんから「地元の若い方の活躍を見るのは嬉しくて元気が出ました」と言って頂き、実行委員としては色々大変な事もありますが、これからもこの音楽祭を続けていきたいと思っています。

女声合唱団「コール麗」×アンサンブル舞歌ジョイントコンサート

11月16日（日）

アイザック小杉文化ホール

互いの合唱団で団内指導をしている木越さんがキューピッド（？）となり今回実現したジョイントコンサートでした。当日は気持ちの良い秋晴れに恵まれ、たくさんのお客様にお越しいただき本当にありがとうございました。選曲会議でぼろっと出たチルコットの『故郷』を演奏することになったのも、同じ富山県で活動する合唱団同士のコンサートとして感じ入るものがあったため。初めての合同練習でもあたたかい音楽が紡ぎ出されていました。アンコールの「明日があるさ」は振り付けもつけて楽しく、「ふるさとの空」は万感の思いを込めて歌いました。これから

も富山で合唱していくぞ！という思いを新たにした演奏会となりました。

男声合唱団K&クルー

第44回演奏会

11月29日（土）

富山県教育文化会館ホール

今回は3ステージ構成で、第1ステージはやなせたかし作詩、木下牧子作曲「男声合唱による10のメルヘン『愛する歌』」、第2ステージは当団の指揮者であった故桑谷泰之の編曲による「1970年代フォーク／ニューミュージック」より神田川、案山子など6曲を披露。「みんなで歌おう」のコーナーでは会場全員で「あの素晴らしい愛をもう一度」を歌って盛り上がりました。第3ステージは多田武彦作曲の男声合唱組曲「雨」でアカペラの男声合唱をお聴きいただき、アンコールで「翼をください」と恒例の「遥かな友に」を披露して締め括りました。久しぶりの富山県教育文化会館での演奏会でしたが、沢山のお客さまにお越しいただきました。

門田宇先生の厳しくも優しいご指導のもと、練習に励んできましたが、その成果を発揮できたと考えています。これも、足を運んでいただいた方々、お世話になった方々のおかげと感謝申し上げます。

女声合唱団「クール・クロア」

第17回演奏会

11月29日（土）

富山市民プラザ アンサンブルホール

多くのご来場者をお迎えして、オープニング「明るい林」で開演、4部構成（全18曲）を演奏しました。

まず選曲にあたって、皆さんよくご存知の唱歌や現代作曲家による作品を導入したこと。私達の合唱団は高齢者が多いゆえに、「富山に伝わる三つの民謡」の3曲は無理ではないかということで、2曲演奏することにいたしました。

練習過程において、新曲導入の際、先生は「この曲はどのように歌ったらよいか」と問いかけ、私達に曲のイメージ化を図ったり、特に言葉のイントネーション（歌う時の抑揚、言葉の発音・発語）について徹底的に繰り返し指導してくださいました。

また各パートの響き合いの重視は勿論のこと、ピアノ伴奏をよく聴いて歌うように指導を受けました。

また時には先生が歌って示してくださるなど、とてもわかり易く、歌うことの楽しさが実感でき、とても充実した練習の日々でした。

一方、運営にあったっては、先生方のアドバイスをいただきつつ、代表を中心に若い方々の力を借りて全団員で取り組みました。

私達は、ご来場の皆様の心に響くように、心を込めて歌いました。

編集後記

今号でも触れた通り、10月には全日本合唱コンクール全国大会（中学生・高等学校部門）が開催されました。多くの出演者やお客様を富山にお迎えするため、当連盟では事前準備から当日の運営まで力を尽くし、関係各位のご協力により滞りなく終えることができた。この経験を通して、加盟団体の横のつながりや県連としての一体感が一段と深まったように感じています。

tuttiではこれまで「私たちのイチオシ合唱曲」など、記事の見直しや新しい試みが続けてきました。今後はより皆さまの情報発信と交流に役立つ媒体を目指し、内容改善にも取り組んでまいります。近くアンケートを実施いたしますので、率直なご意見を寄せいただければ幸いです。

広報部部長

廣井 健一
本多 以都子
牧野 洋子